

# 輝く女性に会いに行こう

企画 神奈川県

第1回

株式会社ファンケル

## 人を大切にすることが、ジェンダー平等な環境づくり

「日本のジェンダーギャップ指数は156か国中120位という報道を目にしたことがある人も多いのではないだろうか。日本のSDGsの取り組みの中でも課題とされているのが目標5の「ジェンダー平等」。特に経済政治分野での格差が大きいとされている。この企画では性別に関わりなく誰もがイキイキと輝ける社会の実現に向け、女性が活躍する働く現場を高校生の視点で取材し、その秘けつをお伝えします。第1回は無添加化粧品や健康食品の製造販売をする株式会社ファンケル。SDGs推進室担当課長の中川亜衣子さんにお話を伺いました。



### 整った社内制度が女性活躍の原点

Q 現在の仕事の内容を教えてください。  
A SDGs推進室で社内におけるSDGsの活動や、視覚障がいがある方に向けたメイクセミナー、特別支援学校の生徒さんを対象にした身だしなみ講座など、社会に向けてSDGsを発信しています。

Q ファンケルさんは女性社員も多く、女性が働く環境が整っているように思えますがどうでしょう。  
A 私もそう思います。産休育休はもちろん用意されているほか例えば時短勤務は「子どもの就学前まで」という会社が多い中で、当社は小学6年生まで可能です。子どもの保育園への送り迎えなどをする多くの社員が使っています。

また、子どもが病気のときには有給休暇とは別で看護休暇が年間5日あり、養育手当は子どもが18歳の誕生日を迎えるまで1人につき、月1万円が支給されます。人事制度や評価制度も男女一律です。4月からは同性パートナーを認めたり、養育手当でも養育手当や看護休暇の対象にしたりするなど幅広くつ

くつなげるのではないのでしょうか。  
A これからの社会を担っていく高校生にメッセージをお願いします。  
Q ジェンダーの視点では相手を傷つけない言葉を選ぶことが大切だと考えています。「男らしさ」「女らしさ」を求めない。学校でも「くん」ではなく「さん」で呼ぶ。「肌色」といわないなど、社会も変化しています。だからこそ、一人一人が「自分らしさ」を大切に、自分の好きなことで輝いてほしいと思います。

Q 中川さんもお子さんがいらつしやいますか。  
A 私は出産後5カ月ほどで復帰しました。当時、子どもが発熱した際に「帰っていいよ」と上司は言ってくれたのですが、自分の中には「私が帰った後、誰かにフォローをさせてしまう」という思いから葛藤することも。しかし上司から「甘えるときには甘えた方がいい」と言われて、できる時にはやればよいと言われて、素直に割り切れるようになりました。

当社には働く女性のロールモデルも多く、私の直属の上司にもお子さんがいて、(基本的に)5時半には退社しています。日本には遅くまで会社に残って頑張ることを美德とする文化がある気がしますが、仕事を早く片付ける人が増えた方が、みんなが働きやすくなり、私もそうありたいと思っています。

結婚退職、出産退職の発想がない会社  
Q 女性の管理職の比率はどのくらいですか。  
A 今、47.1パーセントです。もともと比率は高いのですが、無理に女性を増やそうとしたのではなく、育休から戻った管理職が元の役割に復帰したり、それぞれが適切なポジションにいたりした結果でしょう。ファンケルには、「結婚や出産を理由に退職する」という発想はあまりなく、仕事と育児



中川亜衣子さん。学生時代、就職活動中のストレスで肌荒れしたときにファンケルの店長に悩みを聞いてもらい、それをきっかけにファンケルに就職。現在、同じ会社に勤めるご主人と小学3年生の男の子の3人家族

を両立している社員がたくさんいます。ただ、制度や周囲のフォローに甘んじていられないのではなく、本人の努力が前提にあってこそ周囲の協力が得られるのだと思います。その人の仕事のパフォーマンスが大切で、それは女性に限らず、全ての社員にとって同じこと

Q 中川さんがファンケルに就職するときは、女性が働きやすい会社という意識はありましたか。  
A 全然考えていなくて、入社後に「なんて働きやすい会社だ」と驚きました。女性を主な顧客とする化粧品業界だからということもありますが、女性の意見も通りやすいと感じています。当社は創業者が女性のためにつくった会社でもあるので、女性への理解は会社に根付いていますね。

Q これからの女性活躍への取り組みは。  
A 管理職を目指すには責任と知識が必要になるので、本人の資質に合わせた管理職教育を始めようとしています。男性、女性を分けるのではなく、一人一人の能力を最大限に生かせる教育や制度が当社の一番の強みだと考えています。それこそが最終的にジェンダー平等にも



取材に応じてくれた中川さん(中央)と高校生記者の小川さん(左)と阿部さん(右)



メイクセミナーで講師を務めている中川さん

### 高校生記者の取材記

【取材・執筆】  
小林葵香(私立南嶺百合学園3年)  
自分らしさを大切にします

取材を通して、企業が具体的にどのようにSDGs、特にジェンダーの問題に取り組んでいるのかを知ることができました。メッセージでいただいた「自分らしさを大切に」という言葉がとても印象的でした。自分らしさや好きなことは何かを忘れずに残りの高校生活、またその後も過ごしたいと思いました。

### 【同行取材】

阿部七緒(市立戸塚高校3年)  
今の日本の社会全体では、女性の活躍はまだまだ難しいところが多いと思いますが、ファンケルのように女性の活躍が当たり前の社会になっていき、私も中川さんのようなカッコいい女性になれたらなと思います。

